

千葉県感染症対策審議会麻しん・風しん対策部会、予防接種部会 議事録

1 日 時 令和元年9月4日（水）午後6時45分から午後8時05分まで

2 場 所 千葉県総合保健医療センター 1階 相談室3

3 出席委員

(1) 麻しん・風しん対策部会（11名中9名出席）

猪狩委員、木内委員、木原委員、黒崎委員、白澤委員、新委員、西牟田委員、
馳委員、能川委員（五十音順）

(2) 予防接種部会（5名中5名出席）

木原委員、黒崎委員、白澤委員、新委員、西牟田委員（五十音順）

4 会議次第

(1) 開会

(2) 千葉県健康危機対策監あいさつ

(3) 議事

ア 部会長の選出について

イ 千葉県の麻しん発生状況と対策について

ウ 千葉県の風しん発生状況と対策について

エ 平成30年度 市町村定期接種実施状況について

(4) その他

(5) 閉会

5 議事概要

(1) 会長の選出

千葉県行政組織条例第30条の規定により麻しん・風しん対策部会長及び予防接種部会長には西牟田委員が互選により選出された。

(2) 千葉県の麻しん発生状況と対策について

○事務局説明

資料3～5により事務局から説明

○意見・質疑応答

(質問) 猪狩委員

3番目のスライド(千葉県 麻しん届出状況)について、2018年が黄色、2019年が赤ですが、単純にエピカーブを描くと流行が2回あったと考えられますが、説明のとおり一人の発端者によるアウトブレイクではないということでしょうか。逆にそう言い切れるのでしょうか。

(回答) 事務局

2018年につきましては、第39週以降に大きく立ち上がっている状況ですが、これは海外輸入例を発端とした特定の地域におけるアウトブレイクと考えています。当初、麻しんと疑われない中での行動により感染拡大が確認されましたが、積極的疫学調査実施後は、少数の3次、4次感染に抑えられました。日本全体を見ると麻しん排除状態にあるため、海外からの輸入事例が単発的にどの時期においても発生し得るため、紛れ込み等も含めて2018年は発生しました。

一方で、2019年につきましては、我々が探知した後の調査の中で2次感染は1事例を発端とするもののみでしたが、他自治体で発生した麻しん患者の接触者であった方も数名見受けられました。

つきましては、県内ではなく日本全体として2次、3次感染と考えられる事例が若干見受けられましたが、基本的には単発事例が集積していったと考えています。

(質問) 猪狩委員

そうだとすると、4番目のスライド(全国 麻しん届出状況)と比べて、全国では2019年は更に突出して流行しているのに対し、千葉県は大体25例前後で抑え込んでいるというのは、1例の麻しん患者からそれ以上の拡大を抑えていると評価していいということでしょうか。

(回答) 事務局

そのように評価いただけますとありがたいです。

(意見) 西牟田会長

御意見があったように、多分、千葉県は医療機関、保健所、関係団体が熱心に対応して、そこで御苦労されたことが浸透してきているのではないかと思います。ただ、千葉県では今止まっていますが、全国的にはまだ発生していて、東京等から入ってくる可能性があるため、注意が必要だと思えます。

(意見) 馳委員

資料に対する質問ではなく、現場で麻しん疑い患者に対応している者としての感想・意見です。ゴールデンウィーク最初に空港職員の麻しん症例を診断して、その後の対応をゴールデンウィーク中に行いました。期間中、空港職員の方からの体調不良の連絡が殺到しました。空港の職員は4万人ぐらいいるのですが、感冒様症状、発熱があるといった方から病院にたくさんの電話連絡が入るといった状況が起き、ゴールデンウィーク中に30人位の方から電話があり、私たちも非常態勢でメンバーを増やして対応しました。幸い、麻しんと診断された人はいませんでした。風しんや水痘と診断された方がいました。

報道発表になる場合、限られた人数の接触者であればその方の情報を保健所から教えていただいて、その方に症状が発生した際に疑い症例として病院で対応すればいいのですが、接触者があまりにも多い場合には、通常の対応では困難だと感じました。事前に取り決めることはできないとは思いますが、そういった事態が起これると予想できる場合には、体調不良者がまずどこに連絡を入れるのが良いか等に関して、報道発表前に事前の話し合いが必要だったのではないかと感じました。麻しん症例の最初の3、4日間は気道症状だけという場合もありますが、発症からまもない段階で、明日から職場に戻りたいので麻しんを否定してほしいという主訴の方も受診されました。このような状況で、臨床的に麻疹を否定することは無理ですので、PCRを行って陰性を確認するしかありません。しかしながら、このような疑い症例について全例でPCRを依頼すると、検査機関がパンクしてしまうということになるので、どのあたりに閾値を設定して対応すべきか非常に苦労しました。

多数の疑い症例が受診される可能性がある特殊な場合には、どのような条件の方を接触者として扱うのかなどに関する情報を頂いて、診療に関わる可能性のある医療機関と事前にある程度話し合いを行った方がよいのではないかと感じました。

(意見) 西牟田会長

貴重な御意見ありがとうございます。空港の研修会にも出席いたしましたが、ものすごく多くの空港専属以外の方も来られるなど色々あって、ものすごい数になるのだろうと思いますので、御苦労が良く分かります。今後は、やはり感染症対策というのは、麻しんも大事ですけど、その他のことも沢山あるので、検疫やその他空港職員を巡っては大変かと思います。また色々とお知恵をお借りしたいと思います。

(意見・質問) 黒崎委員

(スライド14) 今後の麻しん対策について、市町村と連携した接種勧奨とありますが、具体的にどのようなことを考えているのでしょうか。連休前の麻しん発生報告を踏まえ、私が園医をしている2保育園に、「千葉市で麻しんが出た」、「連休の移動で流行する可能性が高い」ということから、「年長児、1歳児でまだ接種していない方は至急接種するように」と保護者に通達したのですが、なんと、6月に在園児の健康診断でチェックしたら、10数名のうちたったの3人しか実施していませんでした。ですから、接種勧奨というのは具体的にどうやったら効率がいいのか迷うのですが、効率的な接種勧奨はあるのでしょうか、可能であれば教えていただけますか。

(意見) 新委員

効果のある接種勧奨はなかなか難しいです。松戸は平成28年のアウトブレイク時には、流行地域内の市において、MR（麻しん風しん混合）ワクチンの任意予防接種への費用助成を実施いただきました。一度も定期接種を受けていない小児を対象者として、郵送で接種勧奨を図っていただきましたが、結果として、10%未満の実施率でした。接種勧奨しても難しいということを実感として思っています。

(意見) 黒崎委員

私も手紙を入れてもらったのですが、それでもダメでした。多分、今のお母さん方は、はしかの怖さを本当に知らないのではないかなと思います。お母さん方によく言うのですが、40℃近い熱が2日出たら右往左往するのに、はしかは無条件で1週間近く出るから、接種しておいてくださいと言うのですが、具体的に症状を伝えることも必要と考えています。

(意見) 西牟田会長

非常に大事な根本の問題かと思えます。また風しんでも同じようなことが起こってきて、どうやって接種率を高めるかというのが一番の課題かと思えます。

ワクチンをどうやってきちんと打ってもらうか、それを宿題といたしまして、次の議題に移ります。

(3) 千葉県の風しん発生状況と対策について

○事務局説明

資料6～8により、事務局から説明

○意見・質疑応答

(質問) 猪狩委員

19番目のスライド(千葉県 風しんワクチン接種費用助成開始前後での接種率の変化)について、変わっていないということで寂しそうな発言だったのですが、この分母は何でしょうか。

(回答) 事務局

抗体検査を受けていただいて、陰性だった方が分母になります。

(質問) 猪狩委員

割り算をしているのですが、実際に接種した数は増えていないのでしょうか。検査を受ける人が増えて、同じ63%前後でも接種している人は増えているということになるのではないかなと。そうすれば、やっただけの価値はあったということになるかもしれないし、逆に減ったとしても、前の年に打った人がいるから次の年は減ったという解釈もあるかと思いますが。

(回答) 事務局

また、よく調べてみたいと思います。

(意見) 猪狩委員

やはり、接種率ではなくて、何人打ったかという実数が、大事な事業の評価指数になるのではないかなと思いました。

(意見・質問) 馳委員

千葉県独自の対策をされていて素晴らしいなと思いました。

抗体検査と予防接種実績の全国のグラフですが(スライド14)、実数としては4万人くらいで、割合としては10.2%くらいとのことでしたが、他県と比べて千葉県は高いなどというデータはありますか。

(回答) 事務局

他県の状況までは分からないのが現状です。資料を作成した時点では、詳細がわからなかったのですが、現時点で、国の方からまた調査等が入り、もう少し実際に近い、クーポンの配布数や、そういった実数がわかってきております。10.2%についても半分くらいに落ちるかと思います。

(質問) 西牟田会長

千葉県風しんワクチン接種補助事業実績（スライド19）ですが、市町村によって全然上手くいっていないところがあって、一生懸命やっているところもあって、どういことなのだろうかと。このあたりはどのように指導されているのでしょうか。

（回答）事務局

これは緊急的に立ち上げた事業ということで、市町村の方も準備が大変でした。大きな市は準備を整えて申請していただいたのですが、小さな市であったり、今回は申請しないで自分のところで独自にできるということもあり、状況が市によって色々でした。今年度はまたちょっと落ち着いてどの市も助成を行っているかと思えますので、また状況を見て確認していきたいと思えます。

（質問）馳委員

風しんに関する追加的対策の進捗状況（千葉県）（スライド15）ですが、抗体検査の実施率がエリアによってかなり差があり、安房の地域だけ飛びぬけて高いのですが、同じような対応をしている中で差があるのは何か背景があるのでしょうか。

（回答）事務局

市町村によって母数の捉え方が異なっておりますので、安房がかなり高くなっていますが、実際はもう少しなだらかになってくると思えます。ただ、取り組みの始まりであるクーポンの配布時期が違っておりますので、その関係もあると思えます。これから分析させていただき、遅れているかなという市町村に対しては、進んでいる市町村の取組や工夫点をお伝えし、取り組んでいただけたらなと思えます。

（意見）馳委員

なにかしら独自の取組でうまくいっているのであれば他のエリアでもできることがあるかと思いました。

（意見）西牟田会長

国の第5期の風しん定期接種が開始されていますが、働く人がワクチン接種までに何回か受診しないといけないなどがあり、なかなか進まないといった点もあるかと思えますが、そういったことを解消するため、先程も提案がありましたが、検査結果を聞きに来た時に、既に抗体の低い人はわかっていますから準備をしておいて、そこで積極的に行うというのも一つだと思えます。

その他にも、働く方の問題なので産業医の協力という方法も一つだと思えますが、

これに関して能川委員、何か意見はございますか。

(意見) 能川委員

私が関係している大企業でも、政府が言っていることなので健診時にやろうとしたのですが、ダメでした。なぜかという、簡単な理由で、クーポンが発行される日が市町村によって全然違って、そうすると、契約できているところもあるし、契約できていないところもあるということで、そういう技術的な問題が一つあるということ。

結局、血液検査は全員するので、抗体検査は全然問題ないのですが、クーポンが発行されている人、発行されていない人の区別や、将来的には発行されるかもしれない、ということになってくると、もう企業としてはやっていけないということになります。何か解決の方法を考えないとまずいかなと思います。

やはり、一番効果的なのは、この年代の人は働いている人がほとんどで、定期健康診断は全員にやることになっていて、今ほとんどの企業は血液検査を一緒にやっている、働く人が最大のターゲットだと思いますので、こういった技術的な問題を解決していただければ、企業も対応できるので、行政の方も考えていただければよろしいのではないのでしょうか。

(質問) 西牟田会長

クーポン券に関しては、今、市町村は対応できているのでしょうか。

(回答) 事務局

7月末で全市町村が配り終わっております。

(意見) 西牟田会長

そうしますと、その問題に対しては活用の仕方を指導していくことが大事ですね。

働く人の問題を解決していかなければ、この接種は上手くいかないかなという気がする、関係する方々とよく相談して進めていくのが大事かなという気がします。麻しんを含むMRワクチンでやっていますから、これを解決できればかなり接種率は上がってくると思うので、いかに危機感をもってもらえるかというキャンペーンと、仕組みづくりをやっていくことが大事だと思いますので、是非、そこを工夫していただきたいと思います。

(4) 平成30年度 市町村定期接種実施状況について

○事務局説明

資料9により、事務局から説明

○意見・質疑応答

(意見・質問) 西牟田会長

どうしても、学齢期の接種が少し落ちてしまうということがあるように思います。学校においてもこのあたりを色々指導いただいていると思いますが、木原委員いかがでしょうか。

(意見) 木原委員

今、拝見させていただき、学齢期に接種する予防接種の接種率が低いというのは、子供達が予防接種のために早退しなくてはいけないような状況かと思う。親の意識が高い家庭においては、早退しても市で行う予防接種に連れて行くが、働いている保護者も多く、子どもを早退させる事や仕事を親も休むことに抵抗がある。そのような状況のため、なかなか接種が進まないのではないかと思う。

先程からの説明にあった麻しんなどの予防接種に関して、接種歴を保健調査票などでもチェックするが、受けていない家庭はほとんどの予防接種も受けていないなどの状況がある。

親の意識が高ければ早退してでも受けてくださるし、なかなかお休みもできない状況の方も多いので、市町村の方でも、接種できる日といったものも考えていただけると、もしかしたらもう少し接種率が上がるかなと感じる。

また、接種率を上げるため、学校の方も協力していかないといけないかなと思う。

(意見) 黒崎委員

接種を受けやすい環境ということになりますが、遅くまで診療している医療機関もあり、診療時間内であれば接種もしていただけます。私は共働きの方が多地域で診療していますので、土曜日の午後はワクチン接種だけ行っていますが、今の保護者の意識は少し変化してきているようで、土曜日の午後はやっぱり休みにしたいといった人がいます。休みは休みだという意識があって、空回りしているというのが実態かな、というところです。

(意見・質問) 西牟田会長

折角、医療機関でそういった対応をしているのに、全部ではありませんがそういう一部の方をどうやってきちんと教育できるかというところでしょうか。

ちょっと心配したことが、子宮頸がん予防ワクチンが全く進まない。これは困った

問題だと思えますが、多分、千葉県だけでなく全国的にもそうだと思いますが、打った方が良いとは言うのですが、なかなか進まない。これも特殊な事情があると思います。

その他、特に副反応に関しては重大なことが起こっているということは無さそうですか。

(回答) 事務局

最近、副反応報告から健康被害に、といったものはございません。

(意見) 西牟田会長

とにかく、どうやって、「予防接種をしないといけない」という意識を住民の皆さんに分かっていただくかということが大きな鍵ということと、接種する環境を工夫することも大事で、その辺に尽きるのかなと思います。非常に努力し続けると思いますが、今後も課題を残していくと思います。

6 その他

特になし。

7 閉会 午後8時05分